

発熱・下痢・嘔吐・腹痛をきたす感染性疾患

1. 腸管系アデノウイルス感染症

人に感染するアデノウイルスは30以上の血清型に分かれており、感染すると咽頭炎・喉頭炎等の上気道炎、結膜炎、胃腸炎（腹痛・嘔吐・下痢など）などを引き起こします。幼児に好発する3型の感染は夏のプール熱としてよく知られています。重症化し肺炎等に移行する危険性の高い7型のものもあり注意が必要です。高熱が続いても比較的軽微な症状が多く対症療法で大丈夫ですが、下痢・嘔吐で脱水がみられる場合は補液と安静が必要です。また、咳が多く出る場合は上記の7型アデノウイルス感染の場合があり胸部X線検査など必要となります。

2. 小型球形ウイルス（SRSV）感染症

カリシウイルス、ノルウォーク因子（ノロと呼ばれています、食中毒型・札幌ウイルス）、アストロウイルスなど小型球形ウイルスによる感染でも発熱・嘔吐・下痢を起こします。乳幼児では多くみられますが、夏場は細菌性腸炎との鑑別が必要です。アデノウイルス感染症同様、治療の基本は対症療法と脱水の治療（予防）です。制吐剤は症状に応じて使いますが、原則的には止瀉剤は使わず整腸剤等で経過をみます。脱水に対しては補液（点滴）を行い、ある程度症状が改善したら経口で電解質の入った水分を補給するようにします。

3. ロタウイルス感染症

乳幼児下痢の原因の多くはウイルス性で、冬期は上記のウイルスもみられますがロタウイルス感染症が多くみられます。治療は上記のウイルス感染症同様対症療法で、脱水症の予防と治療が基本です。

4. その他のウイルス感染症

コクサッキーウイルスA・B（手足口病《パンフ》の原因となるウイルス）やエコーウイルスなどのエンテロウイルス群も原因の一つで、症状や治療法等は他のウイルス性腸炎と同様です。

5. 細菌性腸炎

急性下痢、嘔吐、腹痛、発熱の原因はウイルス感染のみではなく、いわゆる食べ過ぎや冷たいものの摂りすぎ、また食物アレルギーなどがありますが感染症としては細菌感染（食中毒）によるものも多くみられます。その他の原因や細菌性腸炎（食中毒）の詳しい説明はホームページに載せています。

冬場に流行するインフルエンザにはよく効く抗ウイルス薬がありますが、上記に示したウイルス性感染症には特に特效薬はなく、からだを充分休めて体力や免疫力を保持することと水分を摂って脱水を予防すること、できれば症状に応じて栄養を補給することが一番の治療となります。仕事や学校など無理して続けていると逆に治癒を遅らせたらと症状が長引いてしまいます。経過中に細菌混合感染も起こり得るし、診断・治療は早いほど良いので早めにかかりつけ医で診察を受けるようにしましょう。



お尋ねになりたいことはご連絡ください

また、色々な病気のお話などむらかみクリニックのホームページに掲載していますのでアクセスしてみてください。

http://www.h5.dion.ne.jp/~m_clinic/

院長